

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 松園福祉会
施設名	あすなろ園事業所内保育施設 八幡乳児保育園
報告者（役職）	瀧 直子（リーダー保育士）
住所・連絡先	岡山県倉敷市玉島勇崎 1044-5
	☎ (086) 441-5400
	E-mail hachi.asnr@gmail.com

○タイトル（保育計画）

音に興味をもって楽しく遊ぼう！
～感じ感動する心を育てる 0, 1, 2 歳のリトミック～

○主な助成備品

電子ピアノ、シンセサイザー、スネアドラム、マット、平均台、ベビーキューブ 等

1. 保育計画策定の目的

当園は特別養護老人ホームやデイサービスなどを運営する法人を設置主体とし、平成 28 年 5 月に開園した事業所内保育施設です。保育運営は、連携施設にもなっている、関連法人の園が行い、3 歳からはそちらへ移行するようになっています。

園の特徴として、小規模保育園ならではのきめ細かい保育を行い、その中で子どもたちの可能性、人間性を広げ心豊かに育ててほしいと様々な活動（当園では『まなび』と呼んでいます）を取り入れています。

小規模保育園での限られた保育環境の中、工夫しながら計画、保育展開を行い、0 歳～2 歳の好奇心旺盛で、何でも吸収する時期に様々な『本物』に触れ、五感で感じ取りながら、自分なりの表現を楽しむことができるような活動を行っております。

連携園では 3 歳児から、まなび『音楽』を取り入れており、3 歳児以降の音楽にも、積極的に関わってほしいという思いから、リトミックを取り入れた保育を行い、感じ感動する心を育てていきたいと思っています。

2. 具体的な実施内容

まず、音を奏でる玩具・用具は、しっかりと触れ、その子どもなりの感じ方、遊び方を大切にする。その後保育者と一緒に音あそびを行い、言葉や行動などで使用方法など知らせ、興味関心を膨らませていく。運動用具は、子どもたちの興味関心、発達に合わせて使用していく。運動用具ではほかに手作りの段差マット等を作成し、運動遊びの幅を広げていく。

玩具・用具を用いたリトミック実施内容

スネアドラム

◎2歳児で使用する。『大きい・小さい 長い・短い』などの対義語が少しずつ理解できるようになってきたので、音を取り入れ多方面から刺激をし、言葉の意味が自然と脳にインプットされるようにする。

- ① スネアドラムを好きに叩いてみる。初めて扱うスネアドラムということもあり、周囲の友達の様子を伺いながら弱めに叩く。友達の音が聞こえると安心した様子で、笑いながら少し強めに叩き始める。しばらく叩き、保育者の『おしまい』の言葉かけで叩くことをやめる。その時、保育士は広げた手のひらをグーに握りしめながら言葉かけを行う。その合図を行うと太鼓をたたくことを【おしまい】の約束をする。

2回目は『おしまい』の言葉はかけず、合図のみ行う。合図に気づいたり、叩く事を止めた友達を見て太鼓を叩く事を止める姿が見られる。

- ② 大きい、小さいの言葉に合わせて太鼓をたたく。その時には、声の大きさも変化させイメージがもてるようにする。慣れてきたら『おおきなたいこ』を歌いながら叩いてみる。



シロフォン付き玉の塔・玉の塔ディスク白木

1歳児：しっかりと追視できるように、ビー玉を転がす。初めはひとつ転がしじっくりと追視ができるようにする。慣れてきたらビー玉の数を増やし視線が様々な場所へ向くようにする。

自分もしてみたいとビー玉に手を伸ばす姿が出てくると、保育士は手のひらにビー玉をのせ、子どもの前に差し出す。子どもが手を伸ばしてきたら、少しずつ保育者の手を後ろへ引き、腕を伸ばして物を掴む経験ができるようにする。



2歳児：ビー玉の色、数を確認し、順番にビー玉を転がす。一つずつ転がす、連続で転がすなど、個々により様々である。転がっている途中でビー玉をつまんで取ろうとする姿が見られる時には、気持ちを抑え最後まで見ることができるよう、『下まで転がる所を見よう。』と言葉をかけたり、一緒に数を数えて見るようにする。



ベビーキューブ（6つの色と音の積み木）

0歳児：保育者がキューブを積み上げ、手本を見せる。高い、低い理解が自然とできるように『高い、高いね。』と話しながら積み上げていく。積み上げたキューブを倒すことが楽しい時期には、崩れた時に、『崩れちゃったね。』『ガシャーン。』など、視線を合わせて様々な言葉を語りかけ、子どもが満足するまで、繰り返し遊べるようにする。

2歳児：一人ひとり色ごとに違う音色をもつキューブを配る。キューブを振り、子どもなりの言葉で、音を表現する。それぞれの表現を認め、自己肯定感を高めていく。次にキューブを2色にし、音を確認した後に目をつむり、聴覚のみで音の判別を行い、集中力を養っていく。



【0歳児】



【2歳児】

マット・平均台

◎マットを使い回転運動、くま歩き、ジャンプをして飛び降りる、バランスをとりながら平均台の上を歩くなど、各年齢ごとの運動機能に合わせ、あそびを展開していく。その中でしっかりと体を意識できるような言葉かけを行う。



電子ピアノ・シンセサイザー

◎電子ピアノ・シンセサイザーを使い、音の強弱、大小、音楽のニュアンスなどの違いを感じ、くり返し行うことにより自分で違いに気づき、表現する力を育めるようにする。

～鬼になって遊ぼう 第1回目～

- ① 鬼のお面を被り、『豆まき』を歌う。その後、鬼のイメージを全身で表現する。その子なりの表現を認め保育者自身も様々な表現を子どもに見せるようにする。
- ② 低音2拍子でピアノを弾く、その音に合わせて、『ドッシン、ドッシン』と言いながら室内を歩き回る。合図なしでピアノを弾くのを止め、子ども達に『音が止まったらピタッと止まる』事を伝える。慣れてきたら『豆まき』をピアノで弾き、壁に貼ってある鬼に向かって豆を投げることを伝える。

このような活動を通して、自分なりに表現を楽しみながら集中して物事に取り組む力、パッと切り替える即時反応を身につけていく。



3. その成果と評価

- 0 歳児：少人数で一人ひとりに十分な時間をかけ、関わる事により、安定した気持ちで園生活を送ることができるようになってきた。
- 微細運動では、手の平や指を広げベビーキューブをしっかりと握り、ねらいを定めてキューブを積み重ねるなど、空間認識能力も発達してきている。
- 粗大運動では、はいはいの時期から、重ねたマットやそれに合わせた手作りマットに登ったり、降りたりしていたこともあって、歩行が安定し、戸外で初めて靴を履いた時にもしっかりとした足どりで歩いていた。
- 1 歳児：微細運動では、転がってきたビー玉を指先でつまみ取ることが、うまくできなかったが、何回か経験する中で、指先で、つまめるようになってきた。
- 粗大運動では、個人差が大きい為、個々に合わせて運動遊びをしてきた。全身のバランスをとること、注意して物事を行うことがまだ難しいので、その子の興味や、発育状況に合わせて短時間で繰り返しできる遊びを取り入れていく。
- 社会性では、2 歳児を真似て『かして』『いいよ』『じゅんばんね。』などの言葉も出てきている。また、2 歳児の活動を見て、自分もしてみたいという気持ちの芽生えが見られるようになってきた。
- 2 歳児：微細運動では、指先でビー玉を落とすという動作で指先機能が発達し、ハサミを使う、紙をちぎるなど日常の細かな動きがスムーズに行えるようになってきた。
- 又、数にも興味関心をもち、ビー玉の数を数え転がしたり、友達と持っている色、数が『一緒・違う』などのマッチングも楽しめるようになってきている。
- 『順番ね。』と子ども自ら言い、友達と順番を回して遊んだり、“友だちと一緒”という楽しさを感じ社会性も身につけてきている。
- 粗大運動では、マットから落ちずに回転運動をしたり、くま歩き、前ジャンプ、後ろジャンプなどの運動あそびを取り入れていった。初めは、うまくいかなかっ

たが何度か経験していくうちに、自分の体を意識して、動けるようになり、機敏性、全身の巧緻性も備わってきた。

友達が行っているときには、しっかりと応援し、難しく困っている友達には、子どもなりに考え『一緒に行こう』とそっと手を差し伸べ助け合う姿が見られるようになっている。できなかった友達ができた時には『ほら、できたね。』『上手だね。』と言葉をかけ、クラス全体で喜び合う姿が見られ、相手を思いやり、感じ、感動する心が育っていると感じた。

4. 今後の課題と展望

0, 1, 2 歳児が同じ空間で、生活を送るメリット、デメリットはありますが、クラス別の活動を送る中、2 歳の真似をしてみようという、0, 1 歳児の姿が見られたり、2 歳児が自分より小さい友だちのお世話をしようとする微笑ましく、心温まる姿が日々見られています。又、少人数ということもあり、子どもの絆も強く相手を思いやる心、子どもなりに問題を解決してみようとする気持ちが同年齢の子どもより強く感じられ、子どもの無限の力には驚かされ、心豊かな子どもに育ってきていると感じます。

リトミックという保育者により、音楽の得意、不得意などがあり身構えてしまうことがあります。日常の保育やあそびの一部分で自然と取り入れることができるように全職員が音楽を意識した保育展開が行えるようにしていきたいと思っています。

また、子どもだけでなく保育者自身が楽しみ、色々な年代の保育者の知っている音楽、ふれあいなど保育者自身も感じ、感動する保育展開を行っていけるようこれからも精進していきたいと思っています。

以上